

[safety]
セーフティー

水害や土砂災害への対策を行い
安全な生活をめざし、
川づくりを進めています。

三六災(サブロクサイ)

悲しい歴史を
繰り返さないために。



土砂災害を受けた小波橋付近(大鹿村・大河原)

昭和36年6月。伊那谷は、一週間で平均年間降水量の3割を超える豪雨にみまわれ、各地で堤防の決壊、土石流、がけ崩れなどが発生しました。

大鹿村では、大西山が大音響とともに崩れ落ち、

東京ドーム2.5杯分に相当する土砂と岩石が集落を直撃。39戸の家屋を一瞬にして押しつぶし、42人の尊い命を奪いました。今でも多くの人の心に刻まれているこの大惨事は「^{サブロクサイ}三六災」

と呼ばれ、語り継がれています。こうした悲しい歴史を繰り返さないために、天竜川上流河川事務所では、河川事業や砂防事業に取り組んでいます。



高森町・市田



駒ヶ根市・中沢

三六災の被害

■死者	101人
■行方不明者	29人
■重軽傷者	1,155人
■被災住家	13,953戸

36災伊那谷災害復旧工事報告書
(長野県土木部)より